

For your Lifework

「生物」「生命」を研究・育成する施設から
読者の皆さんへのメッセージ



公益財団法人 山階鳥類研究所 [Vol.5]

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
TEL: 04-7182-1101 URL: <http://www.yamashina.or.jp/>

文◎ 富田直樹 (山階鳥類研究所 保全研究室 研究員)

海鳥のモニタリングを通して 生物多様性を保全する仕事

日本の国土は、亜寒帯から亜熱帯まで広範囲に及び、複雑に入り組んだ海岸線や起伏の激しい山岳などの変化に富んだ地形もあって多様な気候風土に恵まれています。そのため、日本の国土面積は狭くとも、それぞれの場所に特有の多様な動植物相をもつことが大きな特徴です。しかし今日、この多様な生態系は、地球温暖化や侵略的外来種などの影響で一部では危機的な状況にあります。このような環境変化が目に見える形で現れたとき、すでに有効な対策を打てず手遅れという状況は頻繁に見られます。そこで環境省は、森林や里山、磯などさまざまな生態系に1,000ヵ所程度の定点調査地を設定し、定期的なモニタリングによって基礎的な環境情報の収集と蓄積をおこなうプロジェクト「モニタリングサイト1000」を開始しました。環境変化が起こる前から情報を収集し、わずかな変化をいち早く把握し、保全対策に生かすことが目的です。

山階鳥類研究所は、さまざまな生態系のうち海鳥を中心とした「島嶼」を担当しています。日本では、ウミネコやコアジサシなどの沿岸性の海鳥から外洋性のアホウドリやオオミズナギドリなど、37種程度の海鳥が繁殖していますが、約2/3が環境省のレッドリストに掲載されています。海鳥の子育ては、人の生活圏から遠く離れた「島(ほとんどが無人島)」に集団繁殖地を形成しておこなわれ、その規模は数十万に及ぶことがあります。私たちは、日本全国30ヵ所(77島嶼、25種の海鳥)の海鳥繁殖地を対象に、海鳥の繁殖期である数ヶ月の限られた期間内で年間10ヵ所程度の

繁殖地を回り、個体数や繁殖数のモニタリングをおこなっています。これまでに、北海道東部のオオセグロカモメの大幅な減少や、福岡県小豆島で絶滅危惧種のカムリウミスズメやヒメクロウミツバメがドブネズミなどの移入種の影響で壊滅的な状況にあることなどを突き止め、島嶼環境の保全に貢献してきました。



図1 海鳥繁殖地である無人島でのキャンプ生活



図2 ウミネコ繁殖地での調査の様子

この仕事は、地道にデータを収集し、何かの環境変化が起こったときに初めて日の目を見るものです。当然ながらこれらの調査は、一人の力ではどうにもなりません。まず、島に渡るには船が必要です。ただし、無人島に定期船や港はありません。そのため、地元の漁協や漁師さんらに頼んで島に渡してもらいます。もちろん調査地では多くの協力調査員も必要です。また、ほとんどの海鳥繁殖地は、国や都道府県の鳥獣保護区や天然記念物などに指定されており、毎年すべての関係自治体に調査に関する許認可申請をおこなう必要もあります。つまり、調査を無事に終わらせるには、島での調査や生活能力のほかに、多くの方の理解と協力を得る必要があります。そのための情報発信やコミュニケーションの能力が必要とされます。さらに、調査は天候や海況の影響を受けやすく、海が荒れ、陸で数日間足止めされることはたびたびで、限られた人員や予算の中で計画の大幅な見直しを迫られ、胃を痛める思いもあります。月並みですが、これらの苦勞を乗り越えながら、日本の豊かな生物多様性の現状を最前線で見つめ、保全にかかわれること、これこそがこの仕事の大きな魅力なのでしょう。本成果は、環境省生物多様性センターのホームページ (<http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>) で公開されています。